

人物を鑑識すべき条件

マスダー
オブアーツ 星

一、先づ己れを知れ

己を知り他を知るといふことは人間として最も必要な知識なので、何千年のむかしから東洋でも西洋でも多くの聖賢が繰り返し々々警告されたことであつて、實にそれは生きるに就て必要な知識であるのみならず、又た凡ての事を成就すべき基礎知識ともなるものである。而かも他を知らんと欲せば先づ己れを知るに如くはない。己れを知らずして他を知るとは出来ない。

二、人に對する疑問

自分は幼少の頃(八九歳)から人間といふものに對して大なる疑問を抱き、それから人間の實地研究をして見度い希望も起つて、古本の行商をしなからず、死んで日本國中を歩き廻り、米國に渡つて後も自ら商賣をしたり書生奉公をしたりして好んで苦學生活を営み、彼地で新聞雜誌を經營するやうになつては、多くの外國人ともつきあひ、歸朝後は今の製藥事業を始めた次第であるが、今日までの間に果して幾萬人の人と接觸し交際したか、これを其の面會數にしたらば嘸大した數にもなるであらうが、さて「人とはどんなものか」と聞かれたら一寸返事に困る。

三、人間を知る方法

然し、人とは什麼ものかといふことに就て之れを解決すべき材料がないではない。それは今日の凡ての學問が其の解決資料である。就中、心理學や生理學や發牛學や解剖、病理、政治、經濟、宗教、倫理、哲學、文學、歴史及び統計といふやうなものは凡て人間を知るに就ての必要な學問である。或は其の間の一二に就て専門的に研究しても人間といふものに就ての科學的知識は得られるか知れない。けれども一生の間書齋に閉ぢ籠つて是等の全部を學んでも人間といふもの、眞面目をつかむことは六ヶ數からうと思ふ。人間を知るには人間に關する科學的知識も必要であると同時に、又人波に揉まれ揉まれて自から人間そのものを體驗しなければ要領を得難い。

四、人間たるの面目

そこで自分が今日大なる確信を以て人間の事に關して言ひ得るとは、人間は健康を重んずべきは勿論だが又互に

五、親切の心の素地

凡そ人間として生れて來た以上誰でも親切の心は有るには有るけれども、それが境遇や交友や惡癖などの爲めに蔽はれてゐる人もあるので、そういふ人は立派な感化を受けるか若くは自から修養に努力しなければ遂に人間の仲間入りが出来ないものだと思ふ。而も自分が何も親切な行ひをしないのに、人が直ぐ自分に親切を表して呉れやう管はない、故に人の親切を知らうとするには、其の言語態度挨拶振りよりして更に進んで其の家庭の境遇や職業や教育の程度、趣味、嗜好、年齢、兩親に對する孝行振り、交友、知人等との事前後照

六、成敗を觀る標準

親切の心があれば人間の面目を具へたものとは言へるけれども、さて其の人の人物價値に就ては、其の目的とする所と比較して其の人がこれに相應する條件を具へてゐるかどうかをよく考察しなければならぬ。それはその人の目的によつて千差萬別、一概に云ふことは出来ないが、大體に於て或る事物に成功する人であるか否かを鑑別するには、先づ其の目的とする事が人間に出來得べき事か、時勢に必要なものか、時勢の要求は無くも其成功の曉は社會人生に幾何の貢獻を爲すものか、もつとより以上のものは出來ないかといふやうな問題に就て考察すれば其の目的の良否は分る。就てはこれを成就すべき知識、經驗、準備、希望、熱誠が如何なる程度にあるか、そうして之れを執行すべき身體及び頭腦の健康状態や資力や後援者や家庭の状態等を審査することが肝要なのである。

合すれば大概その人物の如何が分り、親切の心の素地も分る。

之れを要するに人を見る一般的原则としては其の人の智慧、知識、學問の程度、親切心の深淺、向上心の強弱、及び健康の良否といふものが大眼目になるものだと私は思つてゐる。

小兒の罹り易、眼病

らない直ぐに醫者へ行つて眼を摘出し、はその病氣を治す必要があると同様に、他人に傳染せしめぬ様に努めなすし、